岡山畜産便り 1962.03・04

ランドレース種豚の飼育状況について

酪農試験場　　秋　葉　清　巳

古の諺に「空谷のけう音」と云う言葉があります。この意味は非常に珍らしいことを言うのですが、ランドレース種もこれにあてはまるのではないでしょうか。ただ珍らしいだけでなく、生活文化の発達と共に、食生活もますます改善の要が必至で、肉の消費需要の面からランドレース種の存在意義の大きいことは、現在全国的に普及しつつあることからもうかがえると思います。

さて昨年 10 月 19 日、雄１頭、雌４頭がスエーデンから航空便で到着し、次で、11 月 18 日に雄２頭、雌７頭が同じくスウェーデンから海路はるばる導入され、尚 12 月 28 日に雌１頭が到着して、合計雄３頭、雌 12 頭が無事に育っています。その飼育状況は第一次受入分の５頭について、受入当時生後５ヶ月―７ヶ月のものの平均体重 67.5 kg（昨年 10 月 20 日測定）でした。その後 104 日目の今年２月１日測定したところによれば平均体重 132.8 kgにたっしました。その期間の平均増体量は 65.3 kgとなり、１日１頭当り平均増加体重は 628 g となります。飼料給与に就いては 104 日間に濃厚飼料として種豚育成用を５頭分で 1,397.5 kg、１日１頭当り給与量は平均 2,687 kgとなり、飼料効率は 4.23 kg（１kg増体量に要した飼料所要量）となります。其の他青草として主にイタリアンライグラスを１日１頭当り１kg―２kgを給与しました。参考までに別表で体重並に濃厚飼料給与量を示しておきます。

『秋葉君の紹介をかねて附言しておきます。
彼は当試験場の前身、津山畜産農場時代から中家畜を担当し、特に緬羊については、先進地の長野で長く勉強された経歴の持主です。
強い性格の彼は半面に涙もろい情を包み、研究心の旺盛なことは他にひけをとらぬと確信します。
以前、緬羊を使用して飼料の消化試験を行なったことがありますが、全くの処女仕事で不なれのため、あれこれと、とまどったのですが、彼の研究心と創造力のたくましさで、無事やりとげたことがあります。』

彼は豚もヨークシャー種とのつき合いが長いのですが、今回ランドレース種の導入で、大いに意慾２１を燃やし、養豚に精魂を打ちこんでいます。
未知なるランドレースの飼育に彼の神経をすりへらしつゝ４ヶ月を経過した今日、全頭無事な近況を読者諸兄におつたえする彼のよろこびを、誌上をお借りして紹介します。　　（２月 20 日記、みあき）

体　重　表

No	生年月日	26.10.20 測定	27.2.1 測定	104日間の増体量	1日平均増体量
		K	K	K g	g
1	36.4.25	83.3	160	76.7	738以下は5人
2	36.5.1	63.3	125	61.7	589 〃
3	36.5.12	61.3	124	62.7	600 〃
4	36.5.12	65.3	122	56.7	545 〃
5	36.3.15	64.3	133	68.7	632 〃
計		337.5	664	326.5	3,104 〃
平均（1頭当）		67.5	132.8	65.3	628 〃

濃厚飼料給与量

番号	1日量	期間	日数	給与量
				K
1	2.1	10.20～10.26	7	14.7
	2.4	10.27～11.10	15	36.0
	2.5	11.11～12.1	21	52.5
	2.6	12.2～12.18	17	44.2
	2.7	12.19～1.15	28	75.6
	2.8	1.16～2.1	16	44.8
小計			104日	267.8
2	同上			
3	同上			
4	2.1	10.20～10.26	7	14.7
	2.4	10.27～11.10	15	36.0
	2.5	11.11～11.18	8	20.0
	2.6	11.19～12.1	13	33.8
	2.7	12.2～12.18	17	45.9
	2.8	12.19～1.15	28	78.4
	2.9	1.16～2.1	16	46.4
小計			104日	275.2
5	2.5	10.20～10.26	7	17.5
	3.0	10.27～12.18	53	159.0
	3.2	12.19～1.15	28	89.6
	3.3	1.16～2.1	16	52.8
小計			104日	318.9
合計			520	1,397.5
平均	1日平均	1頭分	2K687.5	